

令和5年度町村議会議長・副議長研修会報告

去る5月23日(火)、東京国際フォーラムで町村議会議長・副議長研修会が開催され、村西議長、河村副議長が参加した。

今回の研修会は、全国の町村議会の運営に関し、課題となっていることや早急に取り組むべき問題について、3人の講師から貴重な話を聞く機会を得て、今後本町の議会運営に活かせるべき内容であった。

大正大学教授の江藤俊明氏からは、「町村議会の課題と今後の展望について」と題し、今年の統一選においても、投票率の低下と無投票当選者率が増加した。こうした政治劣化の要因問題点を分析し、地域民主主義を再生させる新たな動きを起こそうと訴えられ、今の政治劣化を打開するために、全国各地の町村議会で進められている事例を紹介いただいた。

NPO法人ブロードバンドスクール協会理事の若宮正子氏(87歳)から、「町村こそデジタルを一住民のためのデジタル活用法」と題し、デンマークの国全体のデジタル化、キャッシュレス化の取り組み事例を紹介された。デンマークも高齢化率は世界で11番目に高い国。この国でこの仕組みが機能しているのは、「政府が社会のために紙媒体をなくしてこうというのだから、高齢者もそれにしっかり馴染もうとする社会への貢献意識を持つ国民性」と分析し、その後全国市町で積極的にDX化を進め利用されている事例を紹介された。そして行政運営でデジタル化は避けて通れない。積極的に活用し住民もそれに馴染もうと結ばれた。

最後に、朝日新聞社コンテンツ編成本部次長の三島あずさ氏からは、「地方議会とハラスメント」と題し、ジェンダー平等や多様性に対する社会の関心は、着実に高まっている。朝日新聞でのジェンダーに関する記事も、10年前は年間36本だったが昨年は586本となった。今やジェンダー不平等で、多様性に欠ける組織や地域は、生き残りが困難となっている。また、女性議員の6割が、議員活動や選挙活動中にハラスメント行為を受けたことがあるとの回答から、三島氏(女性記者)たちの体験と共通の部分があり、人権意識に欠けるセクハラが横行している今の現状を、何とか変えなければと訴えられた。このことを受け朝日新聞社内でもジェンダーに関する発信を続ける中で、朝日新聞はどうなんだとの大きな声を受け、男性だけの紙面、男性だけの管理職などがクローズアップされ、社自体が変わらなくてはとの社長の想いを、「ジェンダー平等宣言」として2020年に発出した。以降、社のジェンダーに関わる各項目の「現在地」を公表している。町村議会は規模が小さいため、

意志決定が速くできるのが強み。是非いろんなトライアルをと話された。

これらの講演を通して、愛荘町議会議員として日々の研鑽の必要と、できるところから一步一步議会改革を進めていきたいと心した一日だった。今後とも町議会に対し、町民の皆様方の変らぬご支援ご協力をお願いします。

議長 村西 作雄
副議長 河村 善一



議員研修会 「指定管理者制度の解説について」

令和5年4月26日(水)に、「指定管理者制度の解説について」と題し、滋賀大学経済学部教授の横山幸司氏より講演をしていただいた。本町には、令和5年4月1日現在指定管理者施設がラポール秦荘けんこうプール、愛知川駅コミュニティハウス、ハーティーセンター秦荘など14施設あり、それらの施設は、民間事業者のスキルやノウハウにより効果的な運営がされている。

研修会では、指定管理者制度について、またその沿革について、さらに指定管理者の公募、選定、協定締結等について、横山教授から講演いただいた。

議員からは、社会情勢が厳しいなか、指定管理施設従業員の処遇改善も必要である。処遇改善分の給料を町が支払う指定管理料に上乗せすることは妥当かとの質問があった。

今回の研修会を踏まえ、議会として適切な判断に努める。

総務産業建設常任委員会委員長 森野 隆



誰もが気持ちよく利用できる公共施設の維持管理を

Q 秦の郷は、雑草が繁茂し憩いの場としては不向き

A 住民の皆様がより快適に利用できるよう取り組む



竹中 秀夫 議員

録画配信はこちら

庁舎の機能集約

問 庁舎等リニューアール事業を住民に理解してもらう具体的な施策を問う。

答 (町長)

来年度の4月から秦荘サードビルの業務拡充を図りたいと考えており、支所としての取扱い業務についても、町広報やホームページ等を活用しながら、両庁舎においても、カウンターに案内チラシなどを配置し、職員一同で周知を図る。また、自治会ミーティングで、理解を深めていただければという努める。

将来のまちづくり構想

問 役場周辺を中心とした土地利用や道路整備の方向性を問う。

答 (町長)

愛知川庁舎を中心に保健センター、消防センター、商工会が位置しているが、将来的には旧愛知川警部交番や旧警察官舎の跡地を含めた一体的な土地利用により、ゆとりある空間を確保した安全・安心

な行政エリアとして整備する考えである。

町道東部開発線と町道愛知川栗田線の交差点部分の改良の検討を行い、道路整備を進めたい。愛知川庁舎前の道路を取り込んだ行政エリアへと整備していきたいと考えている。

財政負担の軽減や平準化

問 公共施設等総合管理計画等の計画どおりに進められていない施設がある。長期的な負担軽減・平準化には到底つながらないのではないか。

答 (町長)

計画がずれ込むことは、その分の維持費が必要となることや、設備等の不具合に修繕費が追加して発生し財政への負担に直結する。

公共施設の最適配置は、町の将来のために着実に取り組んでいかなければならない課題である。

公共施設を利用されている団体等があるなか、それぞれの意見等も聞きながら、議員

の皆様とも意見交換を行い、最善の方法を検討し進めたい。



雑草が繁茂している秦の郷(蚊野地先)

公共施設の維持管理

問 秦の郷は、町民に交流の場を提供し、健全なレクリエーション活動に資する広場として位置づけられたい。

答 (町長)

芝生部分に雑草が繁茂している状況である。維持管理には、業務委託により年2回の芝刈りや手入れ、砂の補充を行っている。

利用状況は、オープンスペース等を日常的に子供たちや近隣の皆さんに利用いただいている。貸切りでの利用は使用承認申請が必要で、平成29年から延べ25件の利用である。

今後は、雑草ができるだけ繁茂しないよう、適宜業務発注することなどにより、住民の皆様がより快適に利用できるよう取り組む。